

Memento

第4号

京都部落問題研究資料センター通信

発行人 灘本昌久
 発行所 京都部落問題研究資料センター
 京都市北区小山下総町5-1
 京都府部落解放センター3階
 TEL・FAX 075-415-1032
 郵便振替 00930-4-16404
<http://www.asahi-net.or.jp/~qm8m-ndmt/>

追悼 奈良本辰也先生

師 岡 佑 行

奈良本辰也先生は2001年3月22日、京都市内の病院で亡くなられた。先生には京都部落問題研究資料センターの前身にあたる京都部落史研究所の発足にあたってつよいご支持をいただき、毎年の総会にはかならず老躯を運ばれた。晩年、足を痛められてからは奥さまの千枝さんが付き添われ、欠席なさることはなかった。若い人たちの姿に接するのは気持ちのよいものだ、よく語られたものだった。在りし日の先生をお偲びするとともに、お寄せいただいたご厚情に深く感謝を捧げたい。

奈良本辰也先生は1913年(大正2)12月11日、風光明媚な瀬戸内海の島、山口県の大島でお生まれになりました。岩国中学校から旧制松山高等学校に進み、さらに京都帝国大学文学部において国史(日本史)学を専攻されたのであります。

先生の学生時代は、野間宏氏の小説『暗い絵』の時代であって、この小説の登場人物は先生の親しい友人たちで、わずかな良心のひとりとして戦争に抗しておられました。西田直二郎先生に師事され、文化にたいする強い関心を抱かれます。1938年(昭13)に卒業後、但馬の県立豊岡中学校の教壇に立たれましたが、清新と自由と陽性のシンボルとして、生徒たちの心を引き付けました。作家の山田風太郎さんはそのひとりです。

間もなく京都に戻られ、京都市史編纂所に勤務され

ますが、1943年5月、最初の著作として『近代陶磁器業の成立』を刊行されます。戦争末期、八紘為宇、神国日本は不敗だとの皇国史観が風靡するなかにあって、研究対象に陶磁器を取り上げられたこと自体、静かな抵抗であり、時局に対する先生の姿勢をみごとに示すものであります。

戦後、故郷に帰られていた先生は京都に戻られます。敗戦の翌1946年、立命館大学文学部の専任講師となり、48年には教授に就任されました。以後、1969年までの23年間、同大学に在籍され、盛名を慕うもの多く、文字通り立命館大学の花形教授でありました。ただし、後述するような理由から名誉教授の称号をもらっておられないことは特記されます。

京都に戻られた先生は、明治維新をテーマに、精力的に研究をすすめられ、1947年には論文「郷土＝中農層の積極的意義」を発表され、颯爽と学会にデビューされたのでした。戦後初期のご研究には、『資本論』やF・ボルケナウのつよい影響がうかがえますが、いずれも学生時代、長谷部文雄さんや梯明秀さんのもとでひそかに研究された成果を基礎とされたものであります。

1951年、岩波新書の1冊として刊行された『吉田松陰』は、多くの版を重ねました。米ソの対立のもと占領下にあって、民族の独立をもとめる運動に呼応するものとして歓迎されたのでした。戦争の傷痕からどう

5月12日(土) 2時より資料説明会を開催します。詳しくは7頁を御覧ください。

立ち直るかが緊急の課題でした。両陣営の一方に片寄らない全面講和をもとめ、末川博立命館大学学長ら知識人は平和問題談話会を結成しましたが、気鋭の学者として先生も参加され、オピニオン・リーダーのひとりとして活躍なさいました。

先生とはじめてお会いしたのは1953年、立命館大学文学部3年生に編入したときのことです。以来、すでに半世紀に近い日々が流れています。学問とはなにか、研究をすすめるとはどういうことか。人として物事をどのように処するかについて、ことに触れて教えていただきました。それだけでなく、持病で入院したあと、予後の療養のために、半年近く淡路島の別荘を貸していただくなど、深い恩顧を受けてまいりました。

大学のゼミナールのテーマは戦後史でした。おそらく、当時、敗戦後、わずかに8年、戦後史を対象にゼミを開いた大学はどこにもなく、破天荒なところみでありました。先生の指導は、学生の報告にたいして、概念の使い方があいまいだったりすると、容赦なくとがめられ、思わず泣き伏した女子学生がいたほどきびしいものでした。

ある講義のなかで、先生は「鳥羽殿へ五六騎急ぐ野分哉」という蕪村の句を示され、どう思うかと感想をもとめられました。保元か、平治の合戦か。いずれにせよ、その緊迫した情景をよく伝える、この一句に匹敵する叙述が大事なのだ。「考証のプロセスは、全部書かずともよい。結論を端的にまず述べよ。その結論が、他者によってたしかめ直されていく過程で、考証の手固さが明るみに出てゆく」。中世史の横井清さんが書きとめられたところですが、ここに奈良本史学の真髓が込められています。

もちろん、こわいばかりの先生ではありません。学生の研究旅行にかならず同行され、懇親会にもすすんで参加されました。お酒を愛され、斗酒をも辞せずと痛飲され、はては民謡、それに流行歌をつぎつぎと歌われました。もっとも、歌詞は正確なのですが、一本調子で、よく「奈良本節」がはじまったと冷やかし、唱和したものでした。

歴史家としての大きなお仕事は、編纂の中心となられた『日本歴史大辞典』全20巻(河出書房新社刊行)であり、「毎日出版文化賞」特別賞を授与されています。また、『社会科学大事典』全20巻(鹿島研究所出

版会刊行)の編纂に当たられました。前者は小項目主義で引きやすく、初学者にも大いに利用され、図書館で背表紙がボロボロになったのをよく見かけたものです。1966年には、先生の主宰する部落問題研究所は部落問題研究の業績によって朝日賞を受賞しています。いずれも、多くの学者、研究者によって執筆されるものであり、協同の作業によって成就するものであって、人望と信頼がなければ、その中心に立てるものではなく、先生のお人柄によるものでした。

しかし、先生の歴史家としての真骨頂は『吉田松陰』をはじめとする評伝にありました。このほか、高杉晋作、前原一誠、西郷隆盛、二宮尊徳など、枚挙にいとまのないほど、歴史上の人物の評伝をのこされています。そればかりでなく、淡路島の別荘によく遊びに来ていたグンちゃんのお愛称をもつ島の人砂河郡次、叛骨の生涯を送られた岳父の渡辺毅、漂泊をこととした伯父に当たられる方、風流人だった画家小栗美二ら、市井に生きた人々についての評伝とよぶべきものを遺されています。評伝。ここに先生の歴史観の核心がみられます。歴史とはなによりも人間がつくり出ししてきた。邪悪なものも少なくないが、同時に数々の見事なものを創り出ししてきた。後者に着目して、人間の可能性を追究し、それを現在に生かしていきたい。先生には『楽天主義』という著作もありますが、まことに向日性ともいべきご性格で幾多の困難を乗り越えられて来たのでした。

先生は評伝だけでなく、『京都の庭』など庭園、寺院建築、骨董、酒、紀行文など、ひろいジャンルにわたって文章を遺されています。これは人間への深い愛情と関心からであり、かずかずのエッセイによって読者を引きつけ、多くのファンが生まれました。学者だけでなく、むしろ芸術家や作家、文学者など、当代を代表する方々との交友が多かった所以もこのところから来たと申せましょう。

しかし、そればかりではありません。だからこそ、邪悪なことは徹底して憎まれました。理不尽さを見逃すことができず、ことに衆を恃んで、少数を圧殺しようとする動きにたいしては、反骨の精神を燃え上げました。ダンディにして侠氣あつこぎの人でした。

歴史的にながく日本の底辺に置かれ、賤視を受け、差別されてきた部落に対する強い関心とそのひとつで

す。はじめて部落についての本格的な研究をすすめた部落問題研究所の所長として、部落問題や部落の歴史を研究する最前線に立たれました。朝田善之助氏や三木一平氏、木村京太郎氏らによってつくられた研究所の所長に迎えられた先生は研究所の研究機関としての充実につとめられました。1960年代のはじめ先生は、独占資本は部落差別を助長することはなく、部落の改善をはかるという論文を発表し、井上清氏らとの間にはげしい論争を生みました。いま、あらためてかえりみると、65年の同対審答申、69年の同和对策事業特別措置法にはじまる十数兆円におよぶ部落への国、地方自治体の巨額の資金投下を、先生は予言せられていたといえます。このことにわたしたちが気づき、この動向をきちんと捉えきっていたならば、部落解放運動が、あるいはそれによる部落の変貌に心を奪われ、あるいは法と予算に目をくらまされてしまうことはなかったかも知れません。

奈良本先生の主張にたいして、返ってきた答えは総スカンに等しいものでした。先生の見方に反発するものが多く、部落問題研究所に内部亀裂が生じました。研究所は部落問題研究の業績によって、朝日賞を受賞しましたが、その直後に先生は、部落解放運動の内紛にかかわって所長を辞職されたのであります。

その後、1977年、京都部落史研究所の発足にあたっては、絶えず力強い激励と支持を与えられたばかりでなく、代表委員のひとりとして内部にあって支えていただきました。また、朝田教育財団の理事長にも就任なさっていますが、朝田善之助氏との友情からであり、ともに任侠の精神の発露ともいべきものであります。

これよりさき、1969年、先生は立命館大学教授を辞められました。数に頼って少数意見を受け入れない独善的な運営に堪えられなかったのです。全共闘学生による「わだつみ像」破壊にも支持を表明されました。平和と民主主義が、内容を伴わず、形式に流れていることにたいする抗議でありました。

あの時以後、三〇数年。大学はマンモス化し、当時、批判の対象だった産学協同はいまや大学経営の核心に据えられています。人心の荒廃は目をおおうばかりの、20世紀を越えた現在、すべては根底から見直すことを迫られていますが、このとき先生が選ばれた思想と行

動をあらためて顧みることは欠かせません。

大学を辞められた先生は小さな研究所をつくられませんが、間もなく自宅に研究室を設けられ、左方郁子さん、高野澄さんらの助力を得て、著述をはじめ、各地で講演され、テレビに出演されるなど、八面六臂のお仕事をつづけられたのでした。

1990年から雑誌『フロント』に「日本の滝紀行」を連載され始めます。78歳のご高齢でした。そして1997年、あらためて『日本の滝紀行』上下2冊の大冊として世に問われました。神に近づかれた先生は、滝という自然に眼を向けられました。だが、読んでいてつくづくと思い知らされるのは、日本各地百八に及ぶ滝のそれぞれに込めた人間の心であり、人間によってとえられた歴史のなかの滝であるということです。滝それぞれの見事な美しさだけでなく、文人、墨客が詠い、詠んだ和歌、俳句、漢詩、あるいは民謡の数々が散りばめられ、絢爛たる姿をしめされました。しかも、先生の博識がけっして目立つのでなく、滝のなかにとけ込み、滝の音となって響いて参ります。

脚を痛められていた先生はおひとりでは急坂の多い、滝にまで行くことはできません。かならず、奥様が同行されて介添えなさいました。ベレー帽をかぶられ、ステッキをついた、お痩せにはなったが背筋を伸ばした長身の先生と、ひたと付き添われた奥様の姿が浮かんでまいります。奥様の愛情あふるご協力なしにはけっして生まれることのできなかつた著書であります。90歳に近い最晩年、このようにして大著を世に送られたことは、ただただ感嘆の極みであります。

先生の一生は、小事に拘泥せず、陰謀を廻らさず、闊達自在な自由人としての生涯でありました。ファン



「京都の部落史」全巻完結を祝う会で挨拶される奈良本先生

も多かったが、敵視する人たちもけっして少なくありませんでした。多くの著作、各地での講演、テレビジョンへの出演などから来るやっかみに由るものです。

位階なく、勲章なく、名誉教授の称号もなく、博士

号さえない。野にあってひとりの歴史家として屹立されていた先生。奈良本辰也先生は、俗に似て、俗に非ず、まさしく反俗の人でありました。合掌。

部落史の中の「虚構」と「神話」

前川 修

最近「オール・ロマンス事件」について話す機会が何回もあった。主なものは、2001年3月3日の第32回部落解放京都市集会での「オール・ロマンス事件の見直し」と題した報告と、3月10日に大阪人権博物館での「オール・ロマンス事件の実像」と題したキムチョンミ氏との対論だった。準備のために、現在「オール・ロマンス事件」がどのように記述されているかを調べてみたが、呆れるものが多かったので、そのいくつかを紹介したいと思う。

「オール・ロマンス事件」を学習したことがある人は、京都市の各部局担当者を集め、京都市内の地図を用いて低位な実態のある地域に赤丸の印を付けさせ、その印が部落に集中したために、京都市行政の差別性が明らかになり、この交渉によって京都市の同和行政が大きく転換したとするエピソードを聞かされたり、読んだことがあるはずだ。私はこのエピソードを「地図を広げた交渉」と呼んでいるが、「オール・ロマンス行政闘争」の最中に実際におこなわれたかは疑わしい。1991年11月に京都部落史研究所(当京都部落問題研究資料センターの前身)が発刊した『京都の部落史』2近現代は、「オールロマンス事件と行政闘争」の項目があるが、史料的な根拠がないため「地図を広げた交渉」は記述されていない。そればかりか、京都市の同和行政の転換は朝田善之助氏と親交のあった行政職員によっておこなわれたことを明らかにし、戦後部落史を大きく書き換えるものになっている。つまり、現在の部落史にとって「地図を広げた交渉」は、無用の長物となっているのである。にもかかわらず、この「地図を広げた交渉」にしがみついた人たちがたくさんいる。

東上高志氏は「部落問題研究所の五〇年」3(『部落』通巻606号、部落問題研究所、1996年6月)で、「私の『差別』(三一書房)より引用してみよう」と断り、次のような文章を掲載している。

各担当部課長の手によって赤丸が市内の各所に入

れられていきました。初めは市長も余裕をもって見守っていましたが、だんだん顔が青ざめていきました。そうです。その赤丸が、市内の特定の場所に重なっていたからです。その場所が市内に八か所ありました。その、全部が未解放部落だったのです。

この文章は、東上氏自身の著書である『差別』(1959年)から引用したはずなのに、大きく書き換えがおこなわれている。原文では、次のようになっている。

各担当部課長の手によって赤丸が市内の各所に入れられて行きました。どうでしょう。それが全部、見事に重なっている場所が市内に十八カ所あったのです。東三条部落でした。東七条部落でした。田中部落でした。そうです。全部が全部とも未解放部落だったのです。

以前、私は「『オール・ロマンス事件』と『オール・ロマンス行政闘争』の史実を求めて」(『部落解放史ふくおか』80号、福岡部落史研究会、1995年12月)で、東上氏の『差別』を次のように指摘した。

「未解放部落」を「十八カ所」としているが、それは「オール・ロマンス行政闘争」当時の京都市内の部落の数ではない。一九五七年に久世郡淀町が京都市伏見区に編入され、一九五九年に乙訓郡久世村が京都市南区に編入されることにより、京都市内の同和地区は一八地区となるのである。これは、執筆された当時の状況を「オール・ロマンス行政闘争」時代に投影したものである。

赤丸が重なった場所が「十八カ所」から「八か所」になっているのは、単なる誤記ではない。京都市には、戦前・戦中に70箇所以上の不良住宅地区が存在したが、特に不良度の高い「八大不良住宅地区」(楽只、養正、錦林、三条、壬生、崇仁、竹田狩賀、深草加賀屋敷)の改良事業をおこなおうとしていた(前掲『京都の部落史』2近現代を参照)。東上氏は、赤丸が重なった

場所を「八か所」に書き換えることで、「地図を広げた交渉」に整合性と正当性を持たそうとしているのである。東上氏は、キムチョンミ氏が『水平運動史研究 - 民族差別批判』(現代企画室、1994年)で、小説「特殊部落」は朝鮮人を描いた作品であり、「京都府連は、朝鮮人差別を意図的にかくすことにしたのである」との指摘に対して、「私は部落問題を普及するために、沢山の書物(テキストも含む)を書いてきた。そのなかで『オール・ロマンス事件』をとりあげ、『虚構』を広めてきた。『神話』づくりに手を貸してきた」「きちっとした自己批判をしなければならない」(前掲「部落問題研究所の五〇年」3)と述べているにもかかわらず、新たな「虚構」と「神話」を作り出しているのである。

このような書き換えをおこなうのは、東上氏だけではない。『大阪の部落問題』106号(大阪市同和問題研究室、1967年11月)に豊田慶治氏の講演録が掲載されている。

次に土木局長 道巾二米以下の狭い道の比率の高い地域に赤丸を、又舗装されていない主要道路の比率の高い地域に……等々以下13局順々に作業が続けられ、白地図の上に問題所在の赤丸がづぎつぎに打たれてゆきました。

このようにして、赤丸の一番多くついたところ 丁度日の丸の様に密集した地域が、大きな丸が8つ、中位の丸が10、それを大きい順に見ていったら、何と全部市内の部落に合致していることがわかったのです。楽只、養正、三条等々……

豊田氏も東上氏同様に京都市内の部落を18地区としているが、「大きな丸が8つ、中位の丸が10」と八大不良住宅地区を意識したものとなっている。しかし、豊田氏も1996年12月に発刊された『証言・京都市の同和行政 - 雄々しき仲間たち -』(部落問題研究所)では地図に赤丸を付けた局数を「13局」から「十局」に改め、赤丸がついた地域についても、つじつまをあわせるように18地区から16地区に改めるのである。

すべての質問にすべて赤丸がつけられ、恰も大きな日の丸のように見える処が八カ所。準ずる処が八カ所。「北から順次、読み上げて下さい。」楽只、養正、錦林(鹿ヶ谷)、三条、壬生、崇仁が即「部落」と一致していたのであった。

「地図を広げた交渉」にしがみついているのはこの二人だけではない。私は前掲「『オール・ロマンス事

件』と『オール・ロマンス行政闘争』の史実を求めて」を要約した「『オール・ロマンス伝説』と私」を『こべる』39(1996年6月)に発表した。土方鐵氏はこの文章への批判を「小説は小説として読め」『こべる』48(こべる刊行会、1997年3月)でおこなった。土方氏は結論として、「地図を広げた交渉」については「当時、京都府連書記であって、現場にいたわたしに、真っ先に聞くべき」だと主張する。しかし、この「小説は小説として読め」の中で、「地図を広げた交渉」があったとも、土方氏自身が参加したとも記されていない。「当時、京都府連書記」だったのであれば、当然「地図を広げた交渉」に参加していたはずなのに、なぜ具体的な証言が出来ないのだろうか。私が知りたいのは歴史的事実で、実際に「地図を広げた交渉」がおこなわれたのなら、「何時・何処で・誰が参加し、そして、この交渉で本当に京都市の同和行政が転換したのか」ということだ。土方氏が「地図を広げた交渉」の証言をおこない、それが立証されるのであれば、「オール・ロマンス行政闘争」の実像がより明確になり、東上氏や豊田氏のつじつまあわせの「虚構」や「神話」は一掃され、前掲『京都の部落史』2近現代も「地図を広げた交渉」という重要な歴史的事実が欠落した部落史として、改訂をしなければならないだろう。

さらに、私が小説「特殊部落」の筆者である杉山清次氏が、東七条の南に隣接する東九条北部の朝鮮人が集住する地域を元に小説「特殊部落」を執筆したと論証することにたいしても、土方氏は「憶測に憶測を重ねることで、なりたっている。なにも事実は押さえられていないのだ」と批判する。

私は、初めて小説「特殊部落」を読んだ時、それまで抱いていたイメージと原文があまりにも異なるために、戸惑いを感じ、「東七条を舞台としているのに、なぜ登場人物のほとんどが朝鮮人なのだろうか」と素朴な疑問が湧いてきた。この疑問を解くために、杉山氏が勤務していた九条保健所が管轄していた地域を調べてみると、東七条は含まれず東七条よりも南を管轄していることがわかった。また、1951年12月13日に京都府連が京都市会に提出した「部落問題に関する請願書」の中に杉山氏は「東七条部落の一部である山王町に、その仕事のためにつねに出向く」とある。山王町は東七条にはなく東九条北部にあり、九条保健所の管轄なのである。そして、山王町には戦前から朝鮮人が

集住し、現在もその状況は変わらない。杉山氏は職域やその周辺で見聞きする出来事を元に小説「特殊部落」を書き上げたのである。

さらに土方氏は次のように言及する。

いま一点大事なことは、小説というものは、虚構(フィクション)である、ということだ。東七条とか、塩小路橋とか、実在の地名を挙げている限り、そこは、七条部落が舞台であることは、動かないが、登場してくる人間たちは、実在ではない。図越親分という名は、実在だが、小説に描かれている、登場人物としての、図越親分は、実在の図越とは別人の、小説上の人間である。

図越に限らず、すべての人間は、虚構の人物である。その点を読み誤らないでほしい、ということである。

私も土方氏の言われることに、全面的に賛成である。もう少し付け加えれば、東七条という地域を舞台にしているが、これも虚構の世界であり、現実に存在する東七条とは別のものなのである。つまり、杉山氏が描いた世界は現実に存在する「被差別部落」ではなく、彼が作り出した「特殊部落」という虚構の世界なのである。この点を最初に読み誤ったのは、部落解放全国委員会京都府連合会であり、読み誤ることで「オール・ロマンス行政闘争」は成り立っていたのである。

前掲「部落問題に関する請願書」の添付資料には次のように書かれている。

部落にわ「目やにとうそう、はてわみच्चやのハナたれ子たちが、ほんんど裸体に近い風俗でたわむれる空地がある。」「昨日のぞう物は^(髪)仕末もつがす、片^(隅)隅にハエのちよおりよおにまかされきつて異臭が鼻をつく」「そして至るところがドロク密造所」と、生き生きとした実感で彼の差別感を裏付けてゆくだろう。

小説で描かれている「特殊部落」を実在する被差別部落の実態と混同しているのである。さらにこの文章の原文は「朝鮮の^{めやにとうそう}目脂癬瘡果ては^{みच्चや}痘痕の^{はな}涙たれつ子たちが、殆ど裸体に近い風俗で、砧^{きぬた}うつ洗濯女や^{なが}長煙管を喫かす老人の間を縫つて、遊び^{たはむ}戯れている空地があり」(下線は前川)なので、朝鮮人を描いた場面であるのに、朝鮮人とわかる部分をすべて削除し、部落の実態のように書き換えているのである。京都府連は、小説「特殊部落」を読み誤るところか、作り変えたのである。

また、土方氏は『部落解放』379号(1994年9月)に「オール・ロマンス闘争は演出ではない」という文章を発表し、小説「特殊部落」が「朝鮮人部落」を描いたものとする主張に対して、あくまでも被差別部落が描かれたのだと反論している。

「鉄橋を渡った河原附近は東七条になる。この附近一帯は所謂柳原と呼ばれる広大な特殊部落のあるところ」とある。柳原は、東七条部落の旧称である。小説の登場人物に、朝鮮人が多くでくるからといって、ここを「朝鮮人部落」とするわけには、いかない。

(中略)被差別部落に部落民がいなくなり、かわって朝鮮人が住むなどということは、どこにもない話だ。したがって、この小説の世界は、被差別部落の一隅が、舞台だということになる。

(中略)

この小説で名前をもった部落民が、登場している。しかも実在の図越親分である。京都の人に聞けば、すぐ確認できる。東七条部落の人だ。

そのほか、名前がでない部落民が、闇米運びのほかにも、多数でてくる。たとえば、洪水を前にして、「図越親分の肝入りで、小学校に部落の有力者を緊急招集し、事態の円満解決と善後処置について、砕心協議を続けていた」とあるからである。

この主張は「小説は小説として読め」とはまったく正反対で、同じ人のものとは信じがたい。小説「特殊部落」を読むかぎりにおいては、「図越親分」は部落民なのか朝鮮人なのかはわからない。また、小学校に集まった「部落の有力者」も部落民なのか朝鮮人なのかはわからない。小説を読み誤ってはならない。

あと1年足らずで水平社創立80周年をむかえるが、これにあわせた部落史発刊の企画をいくつか耳にする。おそらく、これまでの運動史観の強い部落史から脱却して、新しい部落史になると思われる。近年、言われた「部落史の見直し」は起源の問題だけではなく、部落史全般にわたっておこなわれ、これまで常識とされてきた事柄がいくつも覆されているためである。「オール・ロマンス事件」もその中の一つである。「虚構」や「神話」にしがみついたり、つじつまあわせを繰り返しては、部落史研究の発展の可能性はないのである。

京都部落問題研究資料センター 資料説明会を開催します

京都部落問題研究資料センターの所蔵する図書及び資料は、前身の京都部落史研究所が『京都の部落史』を編纂する中で収集・整理してきたものです。これらの資料を多くの市民に公開し、利用してもらうなかで教育や新しい研究に生かしていこうというのが、この資料センターの設立目的です。

その事業の一環として、所蔵資料の全体像を説明し、実際に史料を提示しながらどういう整理の方法がなされているか、必要な資料の見つけ方等の説明会を下記のとおり開催いたします。ぜひ部落問題・人権問題を研究している研究者・学生の方々、またこれらの問題に関心をもたれている方々に参加していただきますようお願いいたします。

名称：京都部落問題研究資料センター資料説明会

日時：2001年5月12日(土) 午後2時～5時

費用：無料

会場：京都部落問題研究資料センター

参加希望者は4月末日までに電話・電子メール・ファックスでご連絡下さい

《資料の概要》

資料センターの収蔵する資料群は以下のように大別できます。(点数は2000年7月1日現在)

図書(14,819点)

部落問題に関する史料集や論文集など研究に欠かせない書籍を中心に収集しています。又、150種類を越える定期刊行物を受け入れており、これらは合冊製本をして配架しています。「部落解放」「部落」など全国的なものや、「部落解放史ふくおか」や「ひょうご部落解放」など地方の研究誌も数多く所蔵しています。運動団体の機関紙も「解放新聞」「解放の道」などを始め各都府県連版を揃えています。更に、在日朝鮮人問題、女性問題などを扱う研究機関・運動団体の刊行物も収集しています。

又、差別問題に限らず歴史・社会学等の分野の書籍も数多く収集しています。(『京都部落史研究所所蔵図書目録』1997年刊を参照してください。)

古代・中世史料(3,555点)

『大日本史料』などの刊本から、部落史関係の部分を抽出して整理しています。

近世史料(7,737点)

主に京都府下の被差別部落内外に残っている貴重な史料を写真撮影し、それらを焼き付けて整理しています。

近代資料(613点)

旧京都市民生局が所蔵していた行政の内部資料コピーや同和校の『沿革史』コピーなどで、同和行政、同和教育史研究に欠かせません。

部落史関係雑誌論文(5,000点)

京都部落史研究所が『部落史研究文献目録』(1982年)を編纂するために収集した雑誌論文コピーです。主要な学術雑誌を戦前の分から精査して収集したものです。

年表基本カード(27,000点)

多くの刊行物(主に新聞)を精査して、部落問題関係の記事を抽出したものです。

その他

スライドや聞き取りカセットテープ、ビデオ、写真など視聴覚映像が数千点あり、部落の生活や運動の歴史を記録に残しています。

収 集 図 書 (2001年1月～3月受入)

- 増補 アイデンティティと共生の哲学**(花崎皋平著,平凡社刊,2001.1):1,500円
- アジア・太平洋地域における社会権規約の履行と課題**(アジア・太平洋人権情報センター編,現代人文社刊,2000.11):2,500円
- あすへの息吹き 阪神大震災の記録**(兵庫県隣保館連絡協議会阪神ブロック編,兵庫県隣保館連絡協議会刊,1995.7)
- 講演集 新しい部落史の見方・考え方 増補版**(京都府立城陽高等学校編,京都府立城陽高等学校同和部刊,2000.7)
- あつ**(涌嶋克己文・絵,解放出版社刊,2000.10):1,500円
- あの子**(ひぐちともこ作・絵,解放出版社刊,2000.7):1,500円
- 「磯本恒信・前委員長を偲ぶ集い」によせて**(「磯本恒信・前委員長を偲ぶ集い」実行委員会編刊,2001.1)
- いのち輝かせて 天川支部39年のあゆみ**(天川支部39周年記念事業実行委員会編刊,2000.12)
- 今どき 京おんな・京おとこ**(京都新聞社編刊,2000.4):2,381円
- 大王から天皇へ 日本の歴史第03巻**(熊谷公男著,講談社刊,2001.1):2,200円《王権の飛躍「現神(あきつかみ)」への道程》
- 大阪の部落史 第8巻 史料編現代2**(大阪の部落史委員会編,部落解放・人権研究所刊,2001.3):12,000円
- 男の子の性の本 さまざまなセクシュアリティ**(メンズセンター編著,解放出版社刊,2000.9):1,000円
- 『解放新聞』にみる戦後部落解放運動の歩み 創刊2000号記念誌**(解放新聞社編刊,[2000.12]):2,000円
- 新修亀岡市史 資料編第3巻**(亀岡市史編さん委員会編,亀岡市刊,2000.11)《近現代資料編》
- 環境レイシズム アメリカ「がん回廊」に行く**(本田雅和,風砂子・デアンジェリス著,解放出版社刊,2000.7):1,800円《「環境レイシズム」 黒人、ヒスパニックなど非白人の共同体が核のゴミをはじめとする有害廃棄物の処分場や施設の立地先として集中的な被害を受けている》
- 観光コースでない沖縄 第3版**(新崎盛暉,大城将保,高嶺朝一,長元朝浩,山門健一,仲宗根将二,金城朝夫,安里英子,宮城晴美著,高文研刊,1997.8):1,600円《沖縄を知れば、「日本」が見えてくる!》
- 機会不平等**(斎藤貴男著,文藝春秋刊,2000.11):1,619円《新階級社会の諸相を報告する 「いずれは就学時に遺伝子検査を行い、それぞれの子どもの遺伝子情報に見合った教育をしていく形になっていきますよ」(江崎玲於奈・教育改革国民会議座長)》
- きつねのぼんおどり**(山下明生文,宇野亜喜良画,解放出版社刊,2000.6):1,600円
- 教育と家族の不平等問題 被差別部落の内と外**(神原文子著,恒星社厚生閣刊,2000.12):4,000円《家族の階層、保護者の子育てと親子関係、子育て文化の世代間継承といった諸要因を視野にいれながら子どもたちの学習状況及び生活状況に格差を生みだしている諸要因を明らかにする》
- 京析座福井家文書 上**(京都市歴史資料館編刊,2001.2)
- 近代日本と公衆衛生 都市社会史の試み**(小林丈広著,雄山閣出版刊,2001.2):2,800円《コレラが日本の「防疫行政」を変え、「地域差別」を変えた》
- グラフかめおか20世紀**(亀岡市刊,2000.11)《新修亀岡市史資料編第3巻付録》
- 原像 猪飼野莞25時**(牧田清著,解放出版社刊,2000.6):1,700円
- 声 の国民国家・日本**(兵藤裕己著,日本放送出版協会刊,2000.11):970円《幕藩国家の階層化・序列化された忠孝のモラルから、近代の国民国家の一元的な忠孝のモラルへ。その変換装置として機能したのが、近世・近代の大衆社会に流通した物語だった》
- 国民国家とマイノリティ**(今西一著,日本経済評論社刊,2000.10):2,300円《国民国家が形成されてくるなかで、どのように「他者」が排除され、再び「日本国民」という虚構のなかに包摂されていくか》
- '98子育て白書 子どもたちの健やかな成長を願って!!**(部落解放京都府「同和」保育研究集会実行委員会編,京都解放教育研究財団刊,1999.4)
- 小林ハル 盲目の旅人**(本間章子著,求龍堂刊,2001.2):1,500円《最後の誓女・小林ハル(1900年生まれ)の壮絶な人生記》
- コリアン・マイノリティ研究 第1号**(在日朝鮮人研究会編,新幹社刊,1998.1):1,000円《小熊英二「『朝鮮生まれの日本人』 朝鮮人衆議院議員・朴春琴」他》
- コリアン・マイノリティ研究 第2号**(在日朝鮮人研究会編,新幹社刊,1999.6):1,000円《朴容福「外国人登録法とその周辺 指紋捺捺拒否闘争に関わり続けて」他》
- コリアン・マイノリティ研究 第3号**(在日朝鮮人研究会編,新幹社刊,1999.12):1,200円《宮内洋「私はあなたの方のことをどう呼べばよいのだろうか?在日韓国・朝鮮人?在日朝鮮人?在日コリアン?それとも?」他》
- 「在日」が差別する時される時 ほるもん文化9**(ほるもん文化編集委員会編,新幹社刊,2000.9):1,700円
- 「在日」を考える**(尹健次著,平凡社刊,2001.1):

- 1,300円《新たな朝鮮半島・東アジア情勢と可能性としての「在日」を考える》
- 知っていますか? インターネットと人権 一問一答** (高木寛著, 解放出版社刊, 2000.9) : 1,000円
- 知っていますか? AIDSと人権 一問一答** (屋鋪恭一, 鮎川葉子著, 第2版, 解放出版社刊, 1999.2) : 1,000円
- 知っていますか? 子どもの虐待 一問一答** (田上時子編著, 解放出版社刊, 2000.9) : 1,000円
- 知っていますか? 在日外国人と参政権 一問一答** (仲原良二著, 解放出版社刊, 2000.12) : 1,000円
- 知っていますか? 人権教育 一問一答** (森実著, 解放出版社刊, 2000.12) : 1,000円
- 知っていますか? 捜査と報道 一問一答** (佐藤友之著, 解放出版社刊, 2000.5) : 1,000円
- 知っていますか? ハンセン病と人権 一問一答** (ハンセン病と人権を考える会編, 第2版, 解放出版社刊, 2000.6) : 1,000円
- 「自分の国」を問いつづけて ある指紋押捺拒否の波紋** (崔善愛著, 岩波書店刊, 2000.12) : 440円
- 第15回人権啓発研究会討議資料** (第15回人権啓発研究会実行委員会刊, 2001.2)
- 人権の21世紀創造にむけて「人権教育・啓発推進法」活用の手引き** (部落解放・人権研究所編, 部落解放基本法制定要求国民運動中央実行委員会刊, 2001.2) : 1,600円
- ズバリ、「しょうがい」しゃ わが人生に悔いはなし** (森修著, 解放出版社刊, 2000.12) : 1,200円
- 戦間期日本の社会研究センター 大原社研と協調会** (高橋彦博著, 柏書房刊, 2001.2) : 5,800円《戦前の日本社会において相反する役割を担ったとされる両機関の営みに共通する地下水脈を探索し、戦間期日本の「社会化」の進行過程を解明する》
- 憎悪表現とは何か 差別表現の根本問題を考える** (菊池久一著, 勁草書房刊, 2001.1) : 3,500円《たんなる差別的な表現が、なぜ人を傷つけるのだろうか?》
- 大正天皇** (原武史著, 朝日新聞社刊, 2000.11) : 1,300円《「遠眼鏡事件」は真実か?》
- 第四の選択 韓国系日本人 世界六百万韓民族の生きざまと国籍** (河炳旭著, 文芸社刊, 2001.3) : 1,600円《本姓本名で日本国籍取得を!!》
- 高瀬川を歩く 1 崇仁・東九条のあゆみ** (龍谷大学同和問題研究委員会刊, 2001.2)
- 地球市民入門 人間の尊厳のために** (部落解放研究所編刊, 1994.2) : 1,545円
- 中世京都の民衆と社会** (河内将芳著, 思文閣出版刊, 2000.12) : 8,800円
- 朝鮮を知る事典** (平凡社刊, 1986.3)
- 定時制高校青春の歌** (南悟著, 岩波書店刊, 1994.7) : 400円《星空の下にタコ焼き焼きながら女に目配るテキ屋の仕事》
- 哲学者の休日** (長谷川宏著, 作品社刊, 2001.1) : 1,800円《遊びとしての哲学 哲学としての日常》
- 同和教育センター除却記念誌** (同和教育振興会編刊, 2001.1)
- 同和教育への招待 人権教育をひらく** (中野陸夫, 池田寛, 中尾健次, 森実著, 解放出版社刊, 2000.4) : 2,000円
- 鳥取県部落解放研究所創立15周年記念** (鳥取県部落解放研究所刊, 2000.11)
- 奈良本辰也選集 1 師あり友あり** (奈良本辰也著, 思文閣出版刊, 1981.11) : 1,800円
- 奈良本辰也選集 2 維新に生きる** (奈良本辰也著, 思文閣出版刊, 1982.1) : 1,800円
- 奈良本辰也選集 3 歴史の甲乙** (奈良本辰也著, 思文閣出版刊, 1982.3) : 1,800円
- 奈良本辰也選集 4 心ぞ翔ばん** (奈良本辰也著, 思文閣出版刊, 1982.5) : 1,800円
- 奈良本辰也選集 5 美の風景** (奈良本辰也著, 思文閣出版刊, 1982.7) : 1,800円
- 奈良本辰也選集 6 炉辺に語る** (奈良本辰也著, 思文閣出版刊, 1982.9) : 1,800円
- 奈良本辰也選集 別巻 初期論文集** (奈良本辰也著, 思文閣出版刊, 1982.11) : 1,800円
- 21世紀を部落差別撤廃と人間解放の世紀に** (部落解放同盟全国連合会中央本部編刊, 2001.1) : 300円
- ニッカボッカの歌 定時制高校の青春** (南悟著, 解放出版社刊, 2000.5) : 1,600円《仮枠のパネルに向かいクギを打つ桃色ニッカが朝日に映える》
- 日本における部落差別の謂れ 宮城教育大学人権教育講義録** (西田秀秋著, 2000.11) : 1,100円
- 蜂のムサン** (前川む一著, 柘植書房刊, 1993.5)
- 母の遺したもの 沖縄・座間味島「集団自決」の新しい証言** (宮城晴美著, 高文研刊, 2000.12) : 1,800円《沖縄戦の悲惨の極限「集団自決」の中を生き、「真実」を秘めたまま母は他界した。それから10年、いま娘は、母から託された「真実」を「集団自決」の真相とともに明らかにする。》
- ハンセン病と人権 長島愛生園のあゆみ** (福山市人権平和資料館編刊, 2001.1)《企画展図録》
- 皮革世界 明治41年~大正12年** (中央文社, 皮革世界社刊)《1907年頃から1925年頃まで東京で発行されていた皮革産業界誌 複写, 欠号多》
- 被差別部落の歴史 新しい部落史の見方・考え方 改訂版** (京都府立城陽高等学校刊, 2000.7)
- 広島修大論集 人文編 第76号** (広島修道大学人文学会編刊, 2000.3)
- 仏教・共生・福祉** (水谷幸正著, 佛教大学通信教育部刊, 1999.9) : 1,900円
- 第29回部落解放研究京都市集会 [資料]** (部落解放研究京都市集会実行委員会事務局編刊, 1998.2)

第29回部落解放研究京都市集会報告書(部落解放研究京都市集会実行委員会事務局編刊, [1998])

第30回部落解放研究京都市集会 [資料](部落解放研究京都市集会実行委員会事務局編刊, 1999.2)

第32回部落解放研究京都市集会 [資料](部落解放研究京都市集会実行委員会事務局編刊, 2001.3)

(社)部落解放・人権研究所としての「人権教育のための国連10年」に対応した行動計画(部落解放・人権研究所刊, [2000.12])

部落解放・人権年鑑 2000年度版(部落解放・人権研究所編刊, 2001.3)

「部落史」論争を読み解く 戦後思想の流れの中で(沖浦和光著, 解放出版社刊, 2000.12): 2,000円

部落そして人権・環境(和歌山県部落解放・人権研究所企業・行政研修資料編集委員会編, 和歌山県部落解放・人権研究所刊, 2000.12): 2,500円

部落問題・人権事典(部落解放・人権研究所編刊, 2001.1): 48,000円

第9回部落問題を考える集い [報告書](部落解放研究東山実行委員会編刊, 1999.3)

第10回記念部落問題を考える集い 報告書(部落解放研究東山実行委員会編刊, 2000.3)

平城京と木簡の世紀 日本の歴史第04巻(渡辺晃宏著, 講談社刊, 2001.2): 2,200円《「日本」創成の天武系皇統記》

放送禁止歌(森達也著, 解放出版社刊, 2000.7): 1,800円《部落差別と放送禁止歌 『竹田の子守唄』のルーツを訪ねて 他所収》

湊川、私の学校(登尾明彦著, 草風館刊, 1999.5): 2,300円

みのお忠魂碑違憲訴訟ニュース 67(箕面忠魂碑違憲訴

訟を支援する会編刊, 2001.1)《最終記念特集号「ぼくには忠魂碑が地ひびきたてて崩れるの見えるんだ」》

宮津市史 史料編第4巻(宮津市史編さん委員会編, 宮津市役所刊, 2001.2)

名画日本史 全2巻 イメージの1000年王国をゆく(朝日新聞日曜版「名画日本史」取材班著, 朝日新聞社刊, 2000.10, 2001.3): 各2,800円

メッセージ・ソング「イマジン」から「君が代」まで(藤田正著, 解放出版社刊, 2000.7): 1,600円

モハメド・アリー ブラック・アメリカン・ファイター(ジャック・ルメル著, 国代忠男訳・解説, 解放出版社刊, 2000.11): 1,800円

素書エイズと闘う 家西悟全記録(家西悟編著, 解放出版社刊, 2000.6): 1,500円

山中の昔といま 暮らし・語り 埼玉県東部の被差別部落のこと(埼玉県部落解放研究会編刊, 2000.11): 800円

勇気がでてくる人権学習 2 差別・被差別・傍観のトライアングル 人権ワークショップ(白井俊一著, 解放出版社刊, 2000.6): 1,600円

ゆびきりげんまん うめばあちゃんのはなし(富田ききとり絵本制作実行委員会文, 岡島礼子絵, 解放出版社刊, 2000.12): 1,800円

四日市の部落史 第3巻通史編(四日市市編刊, 2000.11)

よみがえる部落史(上杉聰著, 社会思想社刊, 2000.9): 1,800円

律令国家の転換と「日本」 日本の歴史第05巻(坂上康俊著, 講談社刊, 2001.3): 2,200円《平安遷都、帝国はいかに変容したか》

霊山歴史館紀要 第14号(霊山顕彰会刊, 2001.4)《辻ミチ子著「幕末維新の『京都学』 松尾多勢子」所収》

収集逐次刊行物目次 (2001年1月~3月受入)

~各逐次刊行物の目次の中から編集部判断でピックアップしました~

あすばる 第4号(甲賀郡人権センター刊, 2001.1): 200円
いま世界は人権の世紀へ 金井英樹
きまぐれ書評
『野洲の部落史 通史編・史料編』(野洲町刊)/
『別冊歴史読本 戦国風雲忍びの里』

明日を拓く 第36号(東日本部落解放研究所刊, 2000.12): 1,000円
特集 部落・現地を訪ねて学ぶ その1
武州横見郡下吉見領を歩く 石田貞/六浦 鳥山洋/近代にできた東京の部落・荒川を歩く 高岩昌興・藤沢靖介

中嶋忠勇氏に聞く 福田村事件への想い 真相解明と慰霊碑の建立を 聞き手石田貞
大学生の「部落史」認識 東日本のある国立大学生の場合 斎藤洋一
近世政治起源説と身分論に関する覚書 1 藤沢靖介
IMADR-JC通信 110(反差別国際運動日本委員会刊, 2001.1): 500円
本の紹介 『国連活用実践マニュアル~市民が使う人種差別撤廃条約』(反差別国際運動日本委員会編)
ウィングスきょうと 第42号(京都市女性協会刊, 2001.2)
図書情報室新着案内
『女性労働と企業社会』(熊沢誠著)/『女性学年報

第21号』(日本女性学研究会刊)/『百年の恋』(篠田節子著)/『パワーウーマン 愛と自立のスケジュール』(谷村志穂著)

大阪の部落史通信 24(大阪の部落史委員会刊,2000.12)

大阪における明治初期の非人施策について 中島智枝子
泉南地域の中近世移行期の部落関係史料について 中家文書への疑問 吉田徳夫

『寝屋川市史』第4巻 近世史料編1について 尾崎安啓
新聞記事と部落11 「貧民部落」から「特殊部落」へ 里上龍平

解放教育 398(解放教育研究所編,明治図書出版刊,2001.2):680円

特集 新しい進路保障教育の構築を

就職差別撤廃、雇用平等実現への課題 部落解放同盟
中央労働対策部/IL0111号条約の早期批准と日本の課題 吾郷眞一/進路実態調査から見えてくるもの 橋本正二郎/せんせいスクーリング 高木典子/多様な生き方モデルとの出会い 「大学体験ツアー」の試みから 芝野尚樹/進路をめぐる実態と進路学習 穴井義人/「学び、育つ主体」を支えるシステムづくり 中山肇/飛びだせWORKING KIDS 二年生職業体験学習 意岐部中学校/いくつかの実践から進路保障教育を考える 陶山時夫/生きる展望を拓く 三年目の「トライやる」 桜井輝之

記者OBの視点 皇太子時代から朝鮮語を語った大正天皇 溝上瑛

解放教育おりおりの断章8 融和教育を研究対象として 川向秀武

書評 『「生きる糧」となる教育を求めて』(野田龍三著)
人の心に働きかけるには、心から出たものでなくてはならない 武藤啓司

戦後子ども会 覚えがき10 中村拓三

解放教育 399(解放教育研究所編,明治図書出版刊,2001.3):680円

特集 21世紀 最前線からのレポート 解放教育をきたえる

動的評価の理念と方法 文部省の評価の改革提案に関わって 玉置哲淳/今、学力を問い直す 高田一宏/学力保障としての部落史学習 外川正明/インクルーシヴ教育へ挑戦 障害児教育の脱構築 堀智晴/知的障害生徒の高校進学保障の制度化に向けて一歩前進 新居晴幸/人権メディア学習のすすめ 矢野洋/生涯学習社会とメディアリテラシー 赤尾勝己/被害者支援システムの構築にむけて 犯罪被害者の人権をとおして考える 新恵理/企業倫理と人権・部落問題の取組

み 中村清二/「男女平等教育」のゆくえ 木村涼子

戦後子ども会 覚えがき11 中村拓三

解放教育おりおりの断章9 個性的な同和教育の先達者たち 川向秀武

解放教育 400(解放教育研究所編,明治図書出版刊,2001.4):690円

特集 子どもの居場所づくり 学級世界をひらく

学級づくりの可能性 「子どもの居場所」をめぐる
園田雅春/「あいうえお」からおもいをつづるまで
中道保子/「Aちゃん元気だね」 みんなとつながりながら 板橋正枝/子どものつづやきをつないで 集団でこそ個が光る 角川峯子/出会いをつくる...私の学級びらき 生命輝く解放教育の営みを築くために 森口健司/地域の人たちとともにつくる『総合的な学習の時間』 谷口延彦/大震災後の子どもたち 兵庫県教職員組合/ひとつの切実な自己表現として 妊娠した10代女性の意識と社会的支援 田中文平,松浦洋栄
図書紹介 『よみがえる部落史』(上杉聰著) 野田龍三
解放教育おりおりの断章10 人間解放の情熱とロマン 川向秀武

解放研究とっとり 第3号(鳥取県部落解放研究所刊,2001.2):1,200円

鳥取藩における被差別部落の地域的特色 坂本敬司

鳥取藩における「在中」非人頭の生活と「役」2 田中真次

戦後部落解放運動史における江府町山林解放闘争の位置づけ 新井宏則

差別落書き そのメカニズムと対策 椋田智和

史料紹介 大正9年の国勢調査と被差別部落の人たち 岩美郡富桑村の紛争 北尾泰志

史料紹介 因幡国高草郡楨原村加藤家文書 宇田川宏

調査報告 医家・徳田家資料を調査

調査報告 古老が語る部落の歩み3 部落と宗教 鳥取県部落解放研究所

元解放同盟県連書記長・前田俊政氏が語る「私の部落解放運動」2

性教育に関する覚え書き 障害児の性教育を考察する前提として 横須賀俊司

実践報告 「太鼓づくり」の教材化、ひろがる親子学習

太鼓職人Sさんとの出会いからの9ヶ月 伊田典穂

実践報告 地域に素材を求めて 砂丘開拓にかけた先人に学ぶ 萬章夫

社会同和教育における学習プログラムについて 参加型の学習を意識して 寺西健一

「下味野隣保館」の取り組み 住民参加の館活動 川口

寿弘

月刊解放の道 204号(全国部落解放運動連合会刊, 2001.1): 350円

21世紀にむけて 子どもの人権と社会 三上満
福岡県同教への公金違法支出損害賠償請求事件 原告第4準備書面

月刊解放の道 205号(全国部落解放運動連合会刊, 2001.2): 350円

「人権救済制度の在り方に関する中間取りまとめ」に対する意見 全国部落解放運動連合会

人権擁護推進審議会「人権救済制度の在り方に関する中間取りまとめ」に対する意見書 日本新聞協会
第150国会衆議院法務委員会議事録 大要

福岡県同教への公金違法支出損害賠償請求事件 原告第4準備書面 下

月刊解放の道 206号(全国部落解放運動連合会刊, 2001.3): 350円

部落解放運動の自己完結を現実の課題に 滋賀県からの報告 2上 鈴木勉市

福岡県 同和行政は永久に不滅か 「解同」呪縛からの解放 植山光朗

「中間取りまとめ」と「確認糾弾」「差別表現」をめくって 新井直樹

架橋 4号(鳥取市人権情報センター刊, 2001.2)

人権のまちづくりシンポジウム

男女共同参画調査旅行~フィンランド・スウェーデン~ 尾崎薫

かわとはきもの 114(東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2001.1)

はきもの・ノート69 鴨沓ノかもくつ 市田京子

靴の歴史散歩59 稲川實

関西大学人権問題研究室紀要 第41号(関西大学人権問題研究室刊, 2000.12)

南北朝鮮における言語規範乖離の起点 頭音法則廃棄政策における金寿卿論文の位置 熊谷明泰

障害者の自立生活支援とピア・カウンセリング 堀正嗣

関西大学人権問題研究室紀要 第42号(関西大学人権問題研究室刊, 2001.2)

取材、報道の自由と人権・プライバシー侵害 田宮武

精神障害者の社会復帰に関する実態調査 8 秋田県 葉賀弘、藤井稔、雑古哲夫、馬場昌子、堀正嗣

季節よめぐれ 第158号(京都解放教育研究会刊, 2001.3)

わたしたちに提起されているもの 溝上澄生

キラキラと輝いて生きるために 総合的学習の時間を拓く全体学習のとりのくみを通して 森口健司

季節よめぐれ 第159号(京都解放教育研究会刊, 2001.4)

学校のたそがれ、学びの夜明け 新しい人権教育の課題 鍋島祥郎

書評『よみがえる部落史』(上杉聰著) 研究者は漁師、教師は料理人 部落史研究の成果を生かした部落史学習を求めて 藤田孝志

季節よめぐれ 第160号(京都解放教育研究会刊, 2001.5)

違いを認め合う社会をめざして 在日のオモニから 金慶子

性的少数者の人権 学校・社会のあり方を探る 池田久美子

セクシュアルマイノリティ教職員ネットワークを設立しました 高取昌二

季節よめぐれ 第161号(京都解放教育研究会刊, 2001.6)

東九条40番地を知るために 宇野豊

学力保障としての部落史学習 外川正明

グローブ 24(世界人権問題研究センター刊, 2001.1)

自然と共生する人間の道 上田正昭

企業と地域との関わりそして人権 山本努

男女共同参画社会の実現に向けて 太田貴美

子どもの人権教育は親子の信頼関係から 金井秀子

ジェンダーでよむ女性の歴史 「貞女二夫にまみえず」

田端泰子

社会が変える法と、法が変える社会と 中井伊都子

女性の旅と「女捕り・辻捕り」 源城政好

「第三人」ということばの誤解 水野直樹

クロノス[時の鳥] vol.14(京都橘女子大学女性歴史文化研究所刊, 2001.3)

所長対談「市民の自覚が社会を変える力 環境問題が問いかけるもの」 浅岡美恵, 小野和子

性と生殖をめぐる諸問題2 「アメリカの妊娠中絶非合法時代 小説『サイダーハウス・ルール』の世界」 鎌田明子

イギリス女性生活誌14 「マザーズ・ミーティング2」

女性たちの情報伝達 松浦京子

京のおんなたち 細川ガラシャを支えた女性 清原マリア

佐野ちひろ

WORLD REPORT チェコ共和国 どきなはれ! 強いぞチェコの身体障害者 岡田寛美

男と女 美意識の変遷7 「たけくらべ」の美登里 山本欣司

荊冠旗 1106(部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2000.11.27): 300円

新刊紹介 『言論の不自由?!』(鈴木邦男著)

シネマ 「サンピエールの命」(パトリス・ルコント監督)

- 荊冠旗 1107** (部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2000.12.11): 300円
映画
『13デイズ』(ロジャー・ドナルドソン監督)/『バトル・ロワイアル』(深作欣二監督)
- 荊冠旗 1108** (部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2001.1.1): 300円
新刊紹介
『天川支部39年のあゆみ いのち輝かせて1・2』(部落解放同盟京都府連合会天川支部刊)/『教養論ノート』(浅羽通明著)
- 荊冠旗 1109** (部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2001.1.15): 300円
映画 『パーティカル・リミット』(マーティン・キャンベル監督)
- 荊冠旗 1111** (部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2001.2.12): 300円
映画 『ダンサー・イン・ザ・ダーク』(ラース・フォン・トリアー監督) みなみあめん坊
- 荊冠旗 1112** (部落解放同盟大阪府連合会池田支部刊, 2001.2.26): 300円
新刊紹介
『公安調査庁 マル秘文書集 市民団体をも監視するCIA型情報機関』(角田富夫編)/『神々の軍隊 三島由紀夫、あるいは国際資本の間』(濱田政彦著)
- 藝能史研究 152** (藝能史研究会刊, 2001.1): 1,600円
書評 『芸能の中世』(五味文彦編) 野地秀俊
紹介
『喜多文庫民俗芸能フォトCD目録』(神戸女子大学能楽資料室編)/『小南の芸能座について』(古川与志継著, 『野洲町立歴史民俗資料館研究紀要』7号)/『二世金剛巖舞台写真集『我忘吾』(金剛永謹監修)
- 研究所通信 269** (部落解放・人権研究所刊, 2001.1): 100円
読んでみたい議論してみたい文献 『学力と自己概念 人権教育・解放教育の新たなパラダイム』(池田寛著)
- 研究所通信 271** (部落解放・人権研究所刊, 2001.3): 100円
読んでみたい議論してみたい文献 『人権の国際保障メカニズムとは アムネスティ活動の視点から』(阿部浩己著)
- こべる 95** (こべる刊行会刊, 2001.2): 300円
だれがかれらを「穢多」と呼ぶのか 身分史研究における立場・主体性 畑中敏之
「部落民の規定」はあるのか 部落解放研究全国集會に参加して 石原英雄
- こべる 96** (こべる刊行会刊, 2001.3): 300円
障害者問題の視点から考える 山城弘敬
永井荷風と部落問題2 「ひかげの花」の女をめぐる野町均
削り取られた「部落」の二文字 阪本清
- こべる 97** (こべる刊行会刊, 2001.4): 300円
「同和はこわい」再考 山本尚友
「融和」は「運動の目的」たり得るか 熊谷亨
- 差別とたたかう文化 20** (「差別とたたかう文化」刊行会刊, 2001.3): 400円
インタビュー まちを変える にんげんの街づくり 山本義彦
「女性国際戦犯法廷」に参加して 広瀬貴子
沖縄大学の歩みに象徴される沖縄の戦後史 宇井純
21世紀を迎えて1 わが足跡 土方鐵
書評 『魏志倭人伝の解明』(藤田友治著) 伊ヶ崎淑彦
追悼 さいなら 鄭承博さん 小野悌次郎
- 狭山差別裁判 第325号** (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2001.1): 300円
新年インタビュー 組坂繁之, 山上益朗
新証拠解説シリーズ7 山口・鈴木鑑定2
インタビュー 20世紀の闇に新世紀の光を 帝銀事件第19次再審の今 平沢武彦
改めて寺尾判決の責任を問う86 佐藤一
まんが狭山事件40 第二次再審請求 勝又進
BOOK 『タイからのたより スナック「ママ」殺害事件のその後』(女性の人権カマラード編著)
- 狭山差別裁判 第326号** (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2001.2): 300円
再審を積極的に認める司法に インタビュー 家西悟
解説 小島意見書 脅迫状と石川さんの結びつきは完全に断たれた
新証拠解説シリーズ8 山口・鈴木補足意見書, 異議申立補充書
連載 54年目の帝銀事件 平沢武彦
改めて寺尾判決の責任を問う87 佐藤一
まんが狭山事件41 七人の元刑事 勝又進
BOOK 『でっちあげ 痴漢冤罪の発生メカニズム』(夏木栄司著)
- 狭山差別裁判 第327号** (部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2001.3): 300円
埼玉・少年事件 齋藤指紋鑑定で冤罪明らかに インタビュー 齋藤保
司法制度改革審議会中間報告への意見 部落解放同盟中央

本部

改めて寺尾判決の責任を問う88 佐藤一

まんが狭山事件42 5つの筆跡鑑定 勝又進

月刊滋賀の部落 316号(滋賀県同和問題研究所刊, 2001.1): 400円

聞き取り 同和施策の終結を目前にして 西川庄太郎氏に聞く

どこへ行く人権啓発8 川辺勉

『淡海国における差別の歴史と部落問題』を読んで 藤野宗典

「和歌山県同和教育研究協議会」解散 谷口幸男

いま、なぜ「人権教育推進」なのか その主体は誰か 木村光夫

就職差別との闘い10 柿元清

月刊滋賀の部落 317号(滋賀県同和問題研究所刊, 2001.2): 400円

「滋賀県人権尊重の社会づくり条例要綱案」についての意見 滋賀県同和問題研究所

地域から声をあげよう 同和行政の終結こそ21世紀の人権運動の幕開け 東野更正

どこへ行く人権啓発9 川辺勉

就職差別との闘い11 柿元清

月刊滋賀の部落 318号(滋賀県同和問題研究所刊, 2001.3): 600円

「同和問題」から「人権問題」への転換は、私たちに何をもたらしたか 「滋賀県人権尊重の社会づくり条例要綱案」の問題 川辺勉

月刊滋賀の部落 319号(滋賀県同和問題研究所刊, 2001.3): 400円

なぜ、全解連滋賀県連は解散なのか(上) 県民の疑問に答える 西条誠司

いま甲西町が変わりつつある 同和行政の終結をめざすとりくみ 加藤伸造

『部落研』から『社研』へ 鎌田ユリ

どこへ行く人権啓発(最終回) 川辺勉

就職差別との闘い12 柿元清

種智院大学研究紀要 第2号(種智院大学刊, 2001.3)

学童集団疎開史研究ノート 向井啓二

幕末期におけるある被差別寺院の動向 「夙寺」をめぐる史料とその注目点 左右田昌幸

人権教育 第14号(人権教育研究所編, 明治図書出版刊, 2001.3): 770円

特集 「参加」で生きる子どもと若者の力

子ども参加(参画)はおとなの変革 甲斐田万智子 / 子ども・若者参加で支援する実践的なポイント 喜多

明人 / 日本における子どものエンパワメントのために 田上時子 / 子どもの商業的性的搾取に反対する運動における子ども・若者参加のリアリズム 要友紀子 / 子どもの頃の実感から「子どもの社会参加の意義」を考える 栗原とも

「人権教育・啓発推進法」の制定について 森実 連載 アジア太平洋地域の人権教育14 技術と人権教育 ジェファーソン・プランティリア

情報交差点 書評

『子どものトラウマと心のケア』(藤森和美編) /

『幼児教育と脳』(澤口俊之著) / 『へこまない女』

(はにわきみこ著) / 『知っていますか?人権教育一

問一答』(森実著)

人権と平和ふくやま 第8号(福山市人権平和資料館刊, 2001.3)

福山城と民衆 吉田和隆

収蔵資料紹介 大津野村役場『進駐軍関係綴』 割石忠典

フィリピンから見た日本 FFO代表藤原ミラさんに聞く

資料館の展示ガイドと出会った人びと 田辺準一郎

人権週間記念企画展「国際理解のために 福山市在住外国人と中国帰国者の日常と活動」にとりくんで 井上孝

信州農村開発史研究所報 第74号(信州農村開発史研究所刊, 2000.10)

歴史マンガの問題点 斎藤洋一

信州農村開発史研究所報 第75号(信州農村開発史研究所刊, 2001.1)

行き倒れ母子の介抱 佐藤敬子

別冊ステイグマ 第13号(千葉県人権啓発センター刊, 2001.1): 2,000円

今後の社会啓発の推進のために 千葉県内3市町「人権問題に関する住民意識調査」(1999年度)から 福岡安則

人権・同和問題に関する県民意識調査 調査結果の要約, 単純集計・ダイジェスト版

世界人権宣言大阪連絡会議ニュース 222(世界人権宣言大阪連絡会議刊, 2001.2): 100円

本の紹介

『国内人権機関の国際比較』(NMP研究会・山崎公士編著) / 『国連活用実践マニュアル 市民が使う人種差別撤廃条約』(反差別国際運動日本委員会編) /

『人権の21世紀創造にむけて~「人権教育・啓発推進法」活用の手引き』(部落解放・人権研究所編) /

『女性差別をなくすために~女性の目で判決・グリム

童話・女偏漢字を読む』(小寺初世子著)

同和教育 466(全国同和教育研究協議会編, 2001.1): 125円

人権文化を拓く49 人権を社会化すること 中島智子

同和教育 467(全国同和教育研究協議会編,2001.2):
125円

人権文化を拓く50 子どもの痛みを共有する 小西清則

はらっぱ 204(子ども情報研究センター刊,2001.1):
700円

子育てサポーター応援講座 "母親"からの解放を 田中
文字

子ども時評1 退去強制におびえる外国人の子どもたち
高山順子

子ども時評2 医療的ケアを必要とする子どもの人権 谷
元達夫

そらちのたわごと 最終回...ッ!! くまがいそらち

ティーンズ・メッセージfromはらっぱ67 家族と日本で暮
らし続けたい ディアナ・ヘレダ

男の先生も女の先生もいる保育所 池田市立古江保育所
学校は今... 在日の子どもたちと 総合的な学習 大阪市
立加美北小学校 根井哲生

私の本棚

『家族「外」家族』(椎名篤子著)/『僕たちは、自
由だ!』(クレイグ・キールパーガー著)

はらっぱ 205(子ども情報研究センター刊,2001.2):
700円

市民と行政のパートナーシップで子どもの権利擁護の体
制をつくろう 田中文字

地域の子どもが共に育つ「特別保育」の取り組み 淡路町
立石屋小学校附属幼稚園

私の本棚

『黒い雨』(井伏鱒二著)/『大リーグのメンタルト
レーニング』(ケン・ラビザ,トム・ヘンソン著)

ヒューマン・アルカディア vol.17(福岡県人権啓発情報
センター刊,2001.2)

新着図書の紹介

『よみがえる部落史』(上杉聡著)/『参加型学習の
すすめ方「参加」から「参画」へ』(廣瀬隆人,澤田
実,林義樹,小野三津子著)/『暮らしの中で迷信と
差別を考える』(差別墓石・法戒名を問い考える会編)

ヒューマンライツ 154(部落解放・人権研究所刊,200
1.1):525円

人権から見た21世紀の課題

「人権教育・啓発推進法」を活用し、人権の21世紀創
造を 友永健三/人権から見た21世紀の課題 私の提
言 李仁夏・上杉孝實・川西玲子・川村暁雄・北口末
広・窪誠・久保田真苗・組坂繁之・炭谷茂・丹羽雅雄・
庭山英雄・福島瑞穂・村越末男

戦後歴史学を歩む13 原点は民族差別と共生の街・猪飼野
戦争・公害・人権の近・現代史を追う 小山仁示 聞き手
溝上瑛

私の見た90年代の戦争6 誰もが戦争に荷担する現代社会
宇田有三

新しい風57 部落解放運動は今 永住外国人の参政権要求
辻暉夫

人権教育「教材」を読む3 『学校における、シチズンシッ
プと民主主義教育のための教育:シチズンシップについ
て諮問委員会最終答申』阿久澤麻理子

今月のおすすめ

『介護保険制度の正しい考え方 福祉が変われば経済
が変わる』(岡本祐三・田中滋著)/『韓国NGOデー
タブック』(在日韓国民主人権協議会編)/『声
の国民国家・日本』(兵藤裕己著)/『薬害が消され
る 教科書に載らない6つの真実』(全国薬害被害者
団体連絡協議会編)/『ボランティア未来論 私が気
づけば社会が変わる』(中田豊一著)

ヒューマンライツ 155(部落解放・人権研究所刊,200
1.2):525円

ヒトゲノム実用時代と差別

ヒトゲノム実用時代と遺伝子差別 福本英子/DNA鑑定
がつくり出すえん罪 足利事件の経過から 小見由香
里

戦後歴史学を歩む14 戦中世代の影響下、新たな日本史を
追求 小山仁示 聞き手溝上瑛

新しい風58 部落解放運動は今 環境と人権の世紀へ 辻暉
夫

博物館と人権学習14 病気と差別を考える資料館 小島伸
豊

アカデミック・ハラスメント 現場からの報告 御輿久美
子

アイヌ民族に対する差別図書を絶対ゆるさない 裁判支援
を訴えます 山本一昭

玲子さんの映画批評 「ダンサー・イン・ザ・ダーク」
(ラース・フォン・トリアー監督) 川西玲子

図書紹介 『IT2001なにが問題か』(林紘一郎・牧野二郎・
村井純監修) 田畑重志

今月のおすすめ

『女性が映画をつくるということ』(高野悦子著)/
『「自分の国」を問いつづけて ある指紋押捺拒否の
波紋』(崔善愛著)/『キーワードでわかる最新・心
理学』(成田毅編)/『女性労働と企業社会』(熊沢
誠著)/『福沢諭吉のアジア認識 日本近代史像をと
らえ返す』(安川寿之輔著)

ヒューマンライツ 156(部落解放・人権研究所刊, 2001.3): 525円

企業が市民として行動する時代

企業への市民の視線に込めて 日本で最初の社会貢献
ファンドを設定 西口徹/企業と人権を考える 第21
回人権・同和問題企業啓発講座より/パネルディスカッ
ション「21世紀の人権システム 雇用差別の撤廃」
木村スズコ, 田中昭紘, 竹下政行, 岡崎慎一郎

戦後歴史学を歩む15 療養から勤評闘争を経て労働運動史
へ 小山仁示 聞き手溝上瑛

アイデンティティと差別・偏見5 社会変革の運動の原動
力となるアイデンティティ 石川結加

人権教育「教材」を読む4 『人権教育指導致案』人権委員
会、教育・文化・スポーツ省ジョイントプロジェクト、
フィリピン 阿久澤麻理子

玲子さんの映画批評「楽園をください」(アン・リー監
督) 異文化融合にむかう世界 川西玲子

ひょうご部落解放 第96号(兵庫部落解放研究所刊, 2000.
11): 700円

特集 沖縄から豊かさを知る 反基地の生き方 1

インタビュー 反基地という生き方 新崎盛暉/民衆が
支える反基地運動 崎原盛秀/基地にレッドカードを!
島袋博江/ジュゴンと共に生きる地域を 東恩納琢磨
/人々が心静かに「もの想う空間」を 佐喜眞道夫

女から女へ 解放運動の中の女性7 生きにくい日本だ
からこそ、朝鮮人として本名で! 皇甫康子

部落史の小窓 一枚の古文書から3 鹿をめぐる騒動 村上
紀夫

映画評「英雄の条件」(ウィリアム・フリードキン監督)
萩原弘子

書評

『沖縄はもうだまされない 基地新設=SACO合意のから
くりを撃つ』(真喜志好一他著)/『沖縄 近い昔の
旅 非武の島の記憶』(森口豁著)

ひょうご部落解放 第97号(兵庫部落解放研究所刊, 2001.
1): 700円

特集 兵庫における解放教育の課題

教育闘争から人権の世紀を 池田勝雄/子ども達に希
望(ゆめ)とパワーを 白川智喜/学校改革と地域の
教育改革 櫻井輝之/これからの保育に問われるもの
吉田恵子/21世紀における同和地区児童生徒のあり方
根本親良

特集 沖縄から豊かさを知る 反基地の生き方 2

人間の尊厳が大事にされる社会の実現を 照屋寛徳/
インタビュー 沖縄と部落 若者が育たない原因はどこ

にあるのか 金城実/戦争屋を喜ばせない生き方 謝
花悦子/軍隊と女性への暴力 源啓美/沖縄に根を張
る地域政党として 新垣重雄

北海道における部落問題の現況 友井公一

隣の人から信じたらええやん 震災から6年を迎えて
村井雅清

座談会 法制化後の「日の丸」「君が代」

映画評「デルタ地帯で」(マヤ・アンジェロウ監督)
萩原弘子

書評『人が歴史とかかわる力』(安達一紀著)

部落 670号(部落問題研究所刊, 2000.12): 840円

特集 20世紀の人権と教育

今世紀を省みて21世紀を望む 成澤榮壽/人権論の地
平 歴史的発展と現在 尾川昌法/国民の意識を責
め立てる教育・啓発 上からの人権教育・啓発の帰結
梅田修/新たな人権救済機関をめぐる議論 「人
権」の名による人権侵害を引起こさないために 奥
山峰夫

教育実践「教育改革」と子どもの人権

いまこそ憲法・教育基本法に基づく教育を 村橋端/
乳幼児期に大切にしたいこと 育ちのすじみちの中で、
子どもの願いを考える 西條久代/子どもの発達と授
業 井上治夫/学級づくりと修学旅行 橋本武人, 中山
協

資料 東大阪市における同和事業の終結に向けての意見書

部落 671号(部落問題研究所刊, 2001.1): 525円

特集 新しい世紀を考える

21世紀は人権と民主主義の世紀か? 碓井敏正/同和
行政の継続は21世紀に何をもたらすか 緊急・当然な
行政課題としての「同和」の終結 杉之原寿一/教育
要求の発展と人権 教育権にかんする一般注釈13号

八木英二/地域福祉の課題と展望 同和の垣根をな
くし、住民の願いがかなうまちづくり 石倉康次/2
1世紀と運動の展望 丹波正史

大阪・泉佐野市「20世紀中に『解同条例』廃止のたたか
い」から 藤岡誠

ホントに本当! 虚構理論を斬る10 将来、部落差別に出会っ
たときのために部落問題を学習する必要がある? 谷口幸
男

人間に光を 部落問題解決へのあしどり10 逆流 東上高志
やき山村ご一新物語22 平井清隆

部落 672号(部落問題研究所刊, 2001.2): 525円

特集 「人権教育・啓発推進法」批判

「人権教育・啓発推進法」は日本の民主主義・人権に
何をもたらすか 村下博/心の中まで介入するのか?

人権教育・啓発推進法と内心の自由 丹羽徹 / 人権教育・啓発推進法の批判的検討 教育学の視点から 室井修 / 「法」の施行で自治体はどうなるか?

川嶋重信

ほんとうの自分をとりもどすために 三重県松阪市・人権侵害とたたかって 弓矢伸一

ホントに本当! 虚構理論を斬る11 国連は、人権教育を四つの側面からとらえることを提起した? 梅田修

京都・「同和担当経営指導員」の即刻廃止を 同和行政の終結と運動・行政の責任 山本良人

徳島県川島町 解同いいなり行政にメス 疑惑解明へ百条委員会 高木純

文芸の散歩道 宮本顕治を入党させたもう一人の男 生江健次「部落挿話」 秦重雄

人間に光を 部落問題解決へのあしどり11 研究 東上高志 やき山村ご一新物語23 平井清隆

部落 673号(部落問題研究所刊, 2001.3): 525円

特集 「介護保険」運動と人権

介護保険施行後の問題点と福祉運動の課題 岡崎祐司 / 介護保険実施後の地域医療・介護の変化 滋賀県・坂本民主診療所の場合 音野喬 / 「夢を現実へ」岡山県津山市さくら介護センター奮戦記 内山龍 / 介護にたずさわるヘルパー労働者の実態 三輪道子

2001年度地域改善予算をみる 田上和儀

ホントに本当! 虚構理論を斬る 最終回 国連が決めた以上「国連人権教育の10年」に取り組む必要がある?

文芸の散歩道 市長になった男の書いた部落問題小説1 「屠牛場の群」...戸川貞雄(神奈川県平塚市) 秦重雄

本棚 『子どもの人権と教育のゆくえ 「少年事件」と「教育改革」』(河瀬哲也著) 三上満

人間に光を 部落問題解決へのあしどり 最終回 総括 東上高志

やき山村ご一新物語 最終回 平井清隆

部落解放 480号臨時号(解放出版社刊, 2001.1): 1,050円

第31回部落解放・人権夏期講座[報告]

部落解放 481号(解放出版社刊, 2001.2): 630円

特集 「人権教育・啓発法」と審議会「中間取りまとめ」

座談会 さらに運動の広がりを 組坂繁之、小西清則、西田伊太郎、永山勝治、津和慶子 / ぬけ落ちた「当事者の視点」 人権擁護推進審議会の救済制度に関する中間取りまとめについて 山崎公士 / 「差別禁止法」制定の必要性を強調 シンポジウム人権擁護推進審議会「答申案」をどう考えるか 人権フォーラム21

有田芳生の情報おもちゃ箱 都はるみと差別問題

アメリカ・レポート21世紀の人権運動1 大統領選挙とマイノリティの公民権侵害 柏木宏

IMADRアップデート スリランカでの草の根プロジェクト 映像フリースペース 「バトル・ロワイヤル」(深作欣二監督) 残酷な映画の悪影響? 白井佳夫

東京音楽通信 岡林信康 ふたたび「あの歌たち」を歌うか 藤田正

やっぱり今この本を9 『シュトルーデルを焼きながら』(ジョアン・ロックリン作) 山下明生

同朋運動五十年の意義 浄土真宗本願寺派の差別撤廃の取り組み 三浦性暁

ルポルタージュ部落2 「長吏」としての歴史と水平社運動 小諸の被差別部落を歩く(中) 鎌田慧

朝鮮人強制連行・強制労働の恨 長編記録映画「百万人の身世打鈴」が完成して 前田憲二

「ちょんがれ」がとりもつ文化交流 編集部

警視庁の採用選考をめぐる 三重県松阪地区高等学校同和教育推進協議会

ホルモン奉行2 牛の巻・部位篇 角岡伸彦

部落解放 482号(解放出版社刊, 2001.2): 1,050円

部落解放研究第34回全国集会報告書

部落解放 483号(解放出版社刊, 2001.3): 630円

特集 介護保険と部落の福祉

住民参加を主体とした地域福祉活動 部落におけるこれからの福祉政策 平沢徹 / 利用者の選択を可能とするために 苦情から見えてくる介護保険の問題点 東野正尚 / 高齢者自身がつくる福祉と人権の街 東京・東墨田の地域活性化にむけたとりくみ お互いさまクラブ / インタビュー 高齢者が生き生きと暮らせるために 大阪・豊中解放会館ではじまった居宅介護支援の取り組み 乾重美、濱浦弘美

アメリカ・レポート21世紀の人権運動2 増大する民族票とマイノリティの政治力 柏木宏

IMADRアップデート コソボのロマの状況について国連にアピール

映像フリースペース 「日本の黒い夏[冤罪]」(熊井啓監督) 白井佳夫

東京音楽通信 部落の子守唄ネットワーク 藤田正

やっぱり今この本を10 『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』(長谷川義史作) 今江祥智

本の紹介

『地域の教育改革 学校と協働する教育コミュニティ』(池田寛著) / 『島が動いた 隔絶60年の体験から「小島の春」はいま!』(加賀田一著) / 『福島瑞穂

の世紀対談 おもしろく生き抜いてみよう』(福島瑞穂著) / 『市民が使う人種差別撤廃条約』(反差別国際運動日本委員会編)

放置された謝罪、責任者処罰、国家補償 民衆法廷「日本軍性奴隷制を裁く女性国際戦犯法廷」が問うもの 川瀬俊治

オーストラリア政府の危険な人権政策 先住民族の権利の視点と国連の人権機構改革 上村英明

西日本文化賞を受賞して 福岡部落史研究会26年間の成果をふまえ研究所への飛躍を 森山沾一

連載近代の奈落を歩く15 大逆事件から水平社まで(上)

明治・大正期 和歌山の被差別部落 宮崎学

ホルモン奉行3 世界篇 角岡伸彦

部落解放 484号(解放出版社刊, 2001.4): 630円

特集 ケガレと差別 その歴史の変遷

絶対的穢れ観の形成 中世に現れた新たな穢れ観 遠藤和夫 / 近世におけるケガレと差別 部落史学習と関連させて 中尾健次 / 近代社会における部落差別と「ケガレ意識」 黒川みどり / 「ケガレ=差別の本質」論の問題性 藤野豊

アメリカ・レポート21世紀の人権運動3 「超保守」の司法長官就任と人権政策の将来 柏木宏

映像フリースペース 「こどものそら」(小林茂監督)

白井佳夫

東京音楽通信 故郷で出会った二つの「竹田の子守唄」

藤田正

やっぱり今この本を11 『輪切り図鑑 大帆船』(スティーヴン・ピースティエ画, リチャード・プラット文) 山下明生

本の紹介

『日本歴史の中の被差別民』(奈良人権・部落解放研究所編) / 『レッジョ・エミリア保育実践入門』(J・ヘンドリック編著) / 『アイヌ ネノ アンチャランケ 河野本道の差別図書を弾劾する』(「飛礫」編集委員会編) / 『私を語ることばに出会って 今を生きる女性たちの物語』(フェミニストカウンセリング堺編) ルポルタージュ 先の見えない生活再建 鳥取県西部地震と被差別部落 矢野宏

ホルモン奉行4 豚・馬・猪の巻 角岡伸彦

立ち上がるインドのダリット IMADRダリット・プロジェクト視察報告 小野山亮

福祉で「地域」の再建を 社会福祉の基礎構造改革と隣保館地域福祉事業の可能性 富田一幸

近代の奈落を歩く16 大逆事件から水平社まで(中) 明治・大正期 和歌山の被差別部落 宮崎学

部落解放運動情報 第54号(部落解放運動・情報編集委員会刊, 2001.1): 300円

こんな本がでています

『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ』(遥洋子著) / 『あんにょんキムチ』(松江哲明著)

部落解放運動情報 第55号(部落解放運動・情報編集委員会刊, 2001.2): 300円

こんな本がでています

『死ぬことと生きること』(土門拳著) / 『アジア的生活』(浜なつ子著)

部落解放運動情報 第56号(部落解放運動・情報編集委員会刊, 2001.3): 300円

こんな本がでています

『魂まで奪われた少女たち』(ジョーン・ライアン著) / 『チーズはどこへ消えた?』(スペンサー・ジョンソン著)

部落解放研究 第138号(部落解放・人権研究所刊, 2001.2): 1,000円

特集 施設コンフリクトと人権啓発

施設コンフリクトと人権啓発 障害者施設に関わるコンフリクトの全国的な動きを中心に 小澤温 / 介護保険市民オンブズマン機構設立の意義と課題 岡本祐三 / 福祉、医療の領域における人権課題 東野正尚 社会福祉の基礎構造改革と人権のまちづくり 富田一幸 部落高校生の進路に関する実証的研究1 階層か身分か 鍋島祥郎

美作改宗一件(下) 新史料による穢寺制および幕府宗教政策の再検討 小椋孝士

たかが公園、されど公園 東アジアにおける公園からの問題提起 柴田昌美

部落の若い世代はいま1 部落と部落外の人の結婚をめぐって 結婚問題研究会事務局 書評

『地域の教育改革 学校と協働する教育コミュニティ』(池田寛著) 野口克海 / 『シリーズ近世の身分的周縁1 民間に生きる宗教者』(高埜利彦編) 森田康夫 / 『アメリカ初の障害者差別禁止法はこうして生まれた』(リチャード・K・スコッチ著、竹前栄治監訳) 尾上浩二

部落解放ひろしま 第50号(部落解放同盟広島県連合会刊, 2001.1): 1,000円

特集1 解放運動をどう担っていくのか

座談会 これからの解放運動の視点と方向性 県連の組織強化に向けて

特集2 ルポ 被差別の諸相

部落解放同盟福井県連合会高浜支部 原発が支える町から 藤坂真治 / 部落解放同盟栃木県連合会榎本支部 栃木の民俗調査に学ぶ 西本小百合 / 部落解放同盟東京都連合会 皮革産業と都市部落のいま 小森龍太郎
論考 日本帝国主義下の部落 福島町一致協会と融和主義を巡って 小早川明良
IT革命の光と影2 インターネットと人権 藤川伸治
部落解放ひろしま 第51号(部落解放同盟広島県連合会刊, 2001.3) : 1,000円
特集 部落の中の就学前教育をどうしていくのか 見えにくくなる差別の中で
集団と遊び(仲間と自我)のなかで輝く子どもたち 鶏内香代子 / 信頼と安心をベースにした子育てを 西尾かづえ / 言葉と自己表現 豊かな感性を育む 井上馨 / 食事と情緒(栄養とこころ) 子どもは何を食べたいのか 沖村曉美
同和教育原論14 子どもの進路保障を形骸化する強制劇 小森龍邦
IT革命の光と影3 インターネットと人権確立のたたかい 藤川伸治
部落解放史ふくおか 第100号(福岡部落史研究会刊, 2000.12) : 1,050円
特集 福岡の部落史研究 25年のあゆみ
前近代史研究の成果と課題 竹森健二郎 / 近現代史研究の成果と課題 『部落解放史・ふくおか』の25年を読み直す 石瀧豊美 / 部落史学習の成果と課題 松永唯道 / 啓発の歩みと21世紀への課題 伊豆丸鼎
『部落解放史・ふくおか』総目次
資料紹介 『人種平等はビジネスを意味する 雇用者に対する人種平等基準』(人種平等委員会、1995年) 山田澄子
書評 『移民の運命 同化か隔離か』(エマニュエル・トッド著)
月刊部落問題 289(兵庫部落問題研究所刊, 2001.1) : 350円
特集 新しい世紀の幕開け
平等と人権、21世紀の課題 碓井敏正 / 21世紀の人権問題の課題 人権・平和・環境の三位一体的解決 杉尾敏明
「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」の問題点 「国民の責務」をめぐる 梅田修
「解同」の「人権条例」制定策動と「人権教育・啓発法」 森元憲昭
東大阪同和行政研究会の「意見書」と全解連蛇草支部のとりくみ 森本啓樹

月刊部落問題 290(兵庫部落問題研究所刊, 2001.2) : 350円
特集 地域研究集会の新展開
20世紀で部落問題研究集会を卒業し21世紀には人権交流集会を開催 神戸部落問題研究集会事務局 / 21世紀を同和のない新しい時代の幕開けに 前田泰義 / 住民が主人公の民主的な地域づくりに応えた『人権と民主主義を考える』丹有研究集会 村上保 / 国民融合をめざす西播のつどい 西尾正樹
近代の社会的差別52 友愛会の歴史的意義と社会事業 6 布川弘
転換期の御風・未明を歌った児玉花外の詩について 「塵の中より 相馬御風君に」・「青い甕 小川未明に 與ふ」をめぐる 後藤正人
月刊部落問題 291(兵庫部落問題研究所刊, 2001.3) : 350円
特集 NPOのまちづくり運動
21世紀に相応しい活動形態・NPO本多昭一 / 住民主体のまちづくり運動をサポートする「NPO神戸まちづくり」 森元憲昭 / 番町地区ふれあいのまちづくり協議会 新たなまちづくり 第2ステージに向けて 浅野弥三 / 西二郎地区における「まちコミュニティづくり」の課題と展望 安田正 / 近代化遺産を歩く 阪上周夫
アイヌ民族をめぐる諸問題 6 加藤西郷
部落問題 調査と研究 150(岡山部落問題研究所刊, 2001.2) : 650円
岡山部落問題研究所創立40周年・部落問題誌刊行150号記念特集
総目次101号~150号
部落問題研究 154(部落問題研究所刊, 2001.1) : 1,111円
人権擁護推進審議会答申批判と現代人権論 尾川昌法
1999年度部落問題研究の成果と課題 近現代部落史 原田敬一
部落問題の歴史的文献目録(1999年)
人権擁護推進審議会の動向と人間の権利 村下博
部落問題の教育史的研究の現状と課題 1990年代の動向を中心に 松浦勉
鈴木良著『歴史の楽しさ』合評会報告
民権協ニュース 121(在日韓国民主人権協議会刊, 2000.12) : 300円
新刊書案内 『朝鮮の虐殺 20世紀の野蛮から訣別するための現場報告書』(呉連鎬著)
民権協ニュース 122(在日韓国民主人権協議会刊,

2001.1) : 300円

書籍紹介 『薬害ヤコブ病 見過ごされた警告』(井本里士著)

Rights ライツ(鳥取市人権情報センター刊, 2001.1)
今月のいちおし! 『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ』

(遥洋子著) 坂根政代

立命館大学国際平和ミュージアムだより 第21号(立命館大学国際平和ミュージアム刊, 2000.12)

ミュージアムおすすめの一冊 『戦争と教科書』(小柴昌子著)

新聞書評欄等 (2001年1月~3月受入)

~各新聞から書評・映画評・VIDEO評等をピックアップしました~

解放新聞 第2002号(解放新聞社刊, 2001.1.15) : 80円

今週の一冊 『機会不平等』(斎藤貴男著)

山口公博が読む今月の本

『シベリヤ物語』(長谷川四郎著) / 『ちくま日本文学全集・佐藤春夫』 / 『楢山節考』(深沢七郎著)

解放新聞 第2003号(解放新聞社刊, 2001.1.22) : 80円

今週の一冊 『兵たちの戦争』(藤井忠俊著)

解放新聞 第2004号(解放新聞社刊, 2001.1.29) : 80円

今週の一冊 『新聞があぶない』(本郷美則著)

近世の部落史像への責任を 中尾健次さんへ 上杉聰

解放新聞 第2007号(解放新聞社刊, 2001.2.19) : 80円

今週の一冊 『声の国民国家・日本』(兵藤裕己著)

解放新聞 第2008号(解放新聞社刊, 2001.2.26) : 80円

今週の一冊 『夢のゆくえ 日系移民の子孫、百年後の故国へ帰る』(モンセ・ワトキンス著)

山口公博が読む今月の本

『「日本」とは何か』(網野善彦著) / 『リサイクル幻想』(武田邦彦著) / 『カミを詠んだ一茶の俳句』(山野三省著)

解放新聞 第2009号(解放新聞社刊, 2001.3.5) : 120円

ケガレと人間の存在 差別のメカニズムを解く1 川元祥一

解放新聞 第2011号(解放新聞社刊, 2001.3.19) : 80円

今週の一冊 『こどもの権利を買わないで プンとミーチャのものがたり』(大久保真紀・文/森野さかな・絵)

解放新聞 第2012号(解放新聞社刊, 2001.3.26) : 80円

今週の一冊 『人間の顔をした国際学 久保田洋遺稿集』(久保田洋著)

解放新聞 第2013号(解放新聞社刊, 2001.4.2) : 120円

今週の一冊 『人生の教科書[ルール]』(藤原和博, 宮台真司著)

ケガレと人間の存在 差別のメカニズムを解く2 部落差別の祖型=差異とは職業である 川元祥一

解放新聞改進黨 第278号(部落解放同盟改進黨支部刊, 2001.1.20)

私の本棚136 『子どもの危機をどう見るか』(尾木直樹著)

解放新聞東京版 第518号(解放新聞社東京支局刊, 2001.2.15) : 90円

反差別の視点から見た白井佳夫の映像批評152 「ベイ・フォワード」(ミミ・レダー監督)

紫明だより

ホームページを開設して半年がたち、アクセス件数は約4000になりました。人権関係テレビ情報が好評ですが、政局の動きなどで番組が変更されることが多々あります。朝、テレビ欄を見て延期されている番組が多いと、「マイツナー」と頭を抱えてしまいますし、変更されたのを知らないで、タイマー録画をすると、後で観て「何でこんな番組とったのかな」と悩むこともあります。/当資料センターの入り口通路に、京都の部落の歴史をパネルで紹介した展示を常設しました。古代から現代までの京都の部落の歴史を、7つの時代に区切り、49枚のパネルで解説したものです。一度、ご覧になって下さい。/5月から事務局体制が少し変わります。(P)

4月29日(日)は開室します。

但し、4月30日(月)から5月6日(日)まで閉室します。